

リハビリテーション部からの研究に関するお知らせ

研究のためカルテの情報を使用させて頂いています

◎対象となる患者さん:脳卒中で入院されたことがある方

1、研究の題名

『脳卒中患者の食事動作獲得過程におけるリハビリテーションの標準化に向けた検討』

研究期間：2020年1月1日～2021年3月31日

2、研究の目的

患者状態変化に応じた最適なリハビリプログラムを実施するために、セラピストの臨床知識を可視化し、標準化を目指す。

プロセスを構造的可視化するツールとして患者状態適応型パス(Patient Condition Adaptive Path System;PCAPS)*¹を用いて、作業の獲得に向けて臨床で行っている介入の流れと全体像を可視化した臨床プロセスチャート(Clinical Process Chart;CPC)*²を作成し、そのユニットを移行する条件を可視化する。

過去症例の臨床過程をCPCPに沿って記録し、ユニット移行のルート検証を行い、チャートの妥当性について初期検証を行うとともに標準プロセスについて検討する。

【用語の説明】

*1:患者状態適応型パス(PCAPS)とは、患者状態を基軸として、複数の目標状態がリンクされ分岐・結合を形成しながら最終目標状態に至る臨床経路、および各臨床過程における臨床の詳細を構造化する俯瞰的なモデルであり、患者状態の様相がどのように変化していくのか、患者状態に応じてどのように臨床を行っていくのかを表現する。

*2:臨床プロセスチャート(CPC)とは、ユニットの連結からなる臨床経路の俯瞰図であり、対象疾患について想定される臨床の大まかな流れと全体像を把握する機能があるチャートのこと。

3、以下の期間に上記(◎対象となる患者さん)を満たした方が対象です

対象期間：2018年10月1日～2019年9月31日

4、本研究で使用する情報について

本研究に関して[診療録]から以下の情報を取得します。

CPC におけるユニット移行日、患者基本情報、原因疾患情報、重症度、既往症、リハビリテーション実施にあたっての阻害因子、転帰情報、リハビリテーション実施情報、患者のリハビリテーション評価の結果

5、取得情報の利用範囲

飯塚病院 で使用します。

解析にあたり、慶應義塾大学、東京大学、聖マリアヘルスケアセンターが助言などを行い支援します。

6、本研究の責任者

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報の漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

(科名又は部署名)リハビリテーション部

(研究責任者名)井本 俊之

7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。

また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(連絡先)飯塚病院 リハビリテーション部 0948-29-8038(直通)

(担当者名)井本 俊之